

## ■校長挨拶

皆様こんにちは。本校校長の山田です。

今年は3月から3か月以上も臨時休校が続きました。中学3年生の皆さんはきっと、勉強に部活動に、一生懸命頑張っていたでしょうから、楽しい学校生活や目指す目標を突然失ってしまって、大変辛い思いをされたのではないかと思います。この頃、私が生徒に呼びかけていたのは、「今できることを精一杯やって、みんなで今の学校生活をもっと良いものにしていこう」ということでした。

皆さんも、目の前の一つひとつのことを頑張り続けることが、将来につながると思いますので、ぜひ頑張ってください。

本校には国際高校としての素晴らしい教育環境があります。外国語教育で言えば、英語のALTの先生だけで4名、第2外国語のネイティブの先生も4名、そして今年度からはアメリカ人の先生が着任し、英語の授業はもちろん、副担任や部活動顧問も担当してもらっています。

本校には「外国語科がある学校で、英語が得意な生徒が多い」、「海外研修や国際交流をたくさんやっている」、こういったイメージをお持ちの方も多いかと思います。でも、これだけでは、本校が目指している方向性を十分に表せていないと思っています。本校には英語が苦手だったり、むしろ数学や理科が好きな生徒も入学しています。

本校の恵まれた環境を活かして、語学力やコミュニケーション力をつけて、国際交流やたくさんの活動で自分の視野を広げて、自分の考えをしっかりとって課題を解決できるようになることは、本校の生徒すべての「土台」であって、これは外国語科も普通科も、文系も理系も関係なく、全員が身につけてほしい、「和国生のスタンダード」だと思っています。そして、この土台をもとに、それぞれの希望する道を極めていってほしいと願っています。

例えば、本校で理系に進んだ生徒の中にも、将来は海外の大学で学びたいと考えている生徒がいます。国際高校の生徒として、語学力が付き、海外への理解が深まったからこそ、こういった希望を持てるようになったのだと思います。

中学3年生の皆さんにとっては、自分の将来というのはまだまだ見えないものだろうと思いますが、その可能性を広げてくれるのが、高校での学びと体験です。高校選びには、「将来のあなたを形づくっていく高校3年間において、たくさんの学びと体験が得られる学校かどうか」、そして「そこで生き生きと学ぶ自分の姿がイメージできるかどうか」、が大事だと思います。もしこのことに共感し本校を志望していただけるのであれば、大変嬉しく思います。

4月に笑顔で本校の門をくぐっていただけることを願っています。受験までは長い道のりですが、大きな夢の実現のために、一步一步頑張ってください。

どうぞよろしく願いいたします。

## ■ 本校概要説明

- 全国公立高校初、県内唯一の国際高校。創立34年目。
- 普通科（6クラス）、外国語科（2クラス）の2学科併設。（今年度の在籍数957名）

1 「Read, See & Think（読んで、見て、そして考えよ）をモットーに、「国際社会で必要とされるグローバルリーダーの育成」を目指す。以下の3つの柱を重視。

- (1) 人間力
- (2) 教養力
- (3) 共生力

2 「人間力」、「教養力」、「共生力」を育成するために

- (1) 平成30年度より、55分授業、週33時間授業の導入。
- (2) 普通科は総合的な学力を培い、外国語科は語学力の育成に力を入れ、ともに進路実現を目指す。

3 本校の特色としての国際教育

- (1) 異文化理解、国際理解教育（海外研修プログラムの充実、海外からの留学生や訪問者の受け入れ）
- (2) アメリカ・ワシントン州ロングビュー市のLCC（州立2年生大学）との進学連携

4 令和3年度入試情報

(1) 普通科（240名）

- ①学力検査重視
- ②学校選択問題実施（数学・英語）
- ③外国人特別選抜実施
- ④実技・面接実施しない

(2) 外国語科（80名）

- ①学力検査重視
- ②英語の得点・・・傾斜配点（200点満点）
- ③学校選択問題実施（数学・英語）
- ④外国人特別選抜実施
- ⑤実技・面接実施しない

(3) 選抜資料の扱いについては、まもなく埼玉県教育委員会から発表予定。本校としては、受検生に配慮する方向性で準備を進めている。

5 今後の学校説明会について

- (1) 今後の学校説明会は実施予定。
- (2) 9月下旬にも追加の説明会を検討中。詳細は本校のHP上に情報を掲載。

## ■ 本校の外国語教育

### 1 グローバルリーダー育成のため、以下の3点を重視している。

- (1) 英語教育
- (2) 第2外国語（中国語、フランス語、ドイツ語、スペイン語）
- (3) 国際交流

### 2 外国語科としての目標（普通科・外国語科においても2つの目標をもって実施）

- (1) 言語運用力の育成
- (2) 社会に貢献する意欲と力の育成

### 3 英語を学ぶ

○Listening ○Reading ○Speaking ○writing→4技能を確実なものにする

### 4 英語で学ぶ

○外国語を一つの強力な手段として、未来を力強く切り拓いていくためには、外国語でディスカッションをし、課題を解決する、そのような授業体験の積み重ねが必要

### 5 英語でどのようなことを学ぶか（授業）

#### (1) CLIL (Content and Language Integrated Learning:「クリル」と呼ぶ)

- 「内容言語統合型学習」というもの。
- 理科や社会などの教科内容、そして国際問題などの要素をたくさん取り入れながら、ペアワークやグループ活動で学習したり、課題に取り組んだりする。
- 新聞や雑誌、インターネットなどからの文字や動画、そのほかさまざまなタイプの情報を英語で取り入れ、分析、新しいものを考え出したり、という活動を行う。

#### (2) 協調学習

(3) 知識構成型ジグソー法など、生徒同士の交流や学び合いの機会が多くなるようにしている。

### 6 外国語科と普通科の違い（特徴的なものを中心に）

#### (1) 外国語科（1学年8クラス中2クラス）

1年次	2年次	3年次
総合英語	総合英語	総合英語
英語表現	英語表現	英語表現
第2外国語	異文化理解	時事英語
	第2外国語	第2外国語

○外国語専門科目の充実：1年次から第2外国語を履修し、3年次には、第2外国語は選択履修。

→選択科目の選び方によっては、第3外国語を履修することができる。

○英語表現では、入学時には自己紹介から入り、2年生ではディベート・ディスカッション、3年生では卒業論文を仕上げる。

○語学力をつけコミュニケーション力を磨き、身の回りのことから世界の問題に目を向け分析する力を養う。

○「異文化理解」という科目では、世界で起こっている様々な問題や課題を扱う。

→上智大学との連携で、CLIL、Content and Language Integrated Learning:内容言語統合型学習という手法を生かした授業を行っている。

(2) 普通科

1、2年次	3年次	3年次
英語表現（分割授業）	第2外国語選択 （中国語） （ドイツ語） （フランス語） （スペイン語）	異文化理解（人文コース） （分割授業）

○1年次の英語表現分割授業に引き続き、2年次にも英語表現は分割授業で行う。

○3年次には、希望者は中国語・ドイツ語・フランス語・スペイン語の中から1つを選択できる。

○和国で特徴的なのは、3年次の文系クラスでは、異文化理解が必修となること。

→異文化理解は、授業活動の中に、CLILの手法を特に重点的に使う科目。

## 7 日々の授業活動とイベント

○プレゼンテーション、○ディスカッション、○ディベート、○ライティング

→考える技術、書くためのブレインストーミングや、アイデアの整理の仕方から効果的なプレゼンテーションまで

→ペアやグループで活動をする中で、得意な面をさらに伸ばし、不得意な面を補う。

→毎回異なるメンバーと作業することにも意味がある。

## 8 多読図書の充実

(1) 各教室に設置

(2) 図書館の多読本も充実

## 9 ALTについて

(1) 通常4名（英語）のALTが常駐→生徒の作文の添削や、生徒の質問に気軽に答えてくれる。

(2) 今年度からは、外国人本採用の先生（アメリカ人）をスタッフとして迎えている。

→英語の授業だけでなく、部活動の指導や、国際教育部の仕事も行っている。

## 10 第2外国語について

(1) 英語の常駐ALTの先生方4人の他に、第2外国語の先生方の授業を受けることができる。

(2) ドイツ語、スペイン語、中国語、フランス語

## ■ 本校の国際教育

○本校の国際理解教育は①海外への研修、②海外からの受け入れがメインである。

### 1 海外派遣について

○オーストラリア、○イギリス、○アメリカ（ワシントン州ロングビュー市）、○東南アジア（昨年度はインドネシア、カンボジア）、○フィリピン（セブ島）、○台湾、○フランス等への訪問。

#### （1）オーストラリアホームステイ研修について（今年度は中止）

- ①夏季休業中に約35名の生徒が2コースに分かれて参加（対象は2年生）。
- ②本校の姉妹校であるヤプーン公立高校と、もう一つはブリスベンにある私立高校またはメルボルン近郊の私立高校との短期交換留学。
- ③ホームステイは本校生徒1名ずつで、オーストラリアの家庭にステイする。

#### （2）イギリスホームステイ研修について（今年度は中止）

- ①夏季休業中に実施。
- ②コッツォルズ地方にあるストラウドという街でホームステイを行う。
- ③約30名の生徒が参加。（1～3年生が対象）
- ④10名程度のグループに分かれ、半日英語の学習を行う。（授業内容はその日に訪れる歴史的な建造物や、出来事に関しての内容）

#### （3）アメリカ・ワシントン州ロングビュー市（和光市姉妹都市）のホームステイ研修（今年度は中止）

- ①約10名の生徒が参加（1年普通科・2年生対象 ※1年外国語科の生徒はこの時期に英語キャンプを実施）。
- ②現地の公立高校に通ったり、公共施設を訪れたりする。
- ③コミュニティカレッジのLCC（ローラー・コロンビアカレッジ）の見学も行う。

#### （4）その他の海外研修

- ①東南アジア（昨年度はインドネシア・カンボジア）1週間程度
- ②フィリピン（セブ島）英語研修、1週間程度
- ③台湾への語学研修、1週間程度
- ④フランス、リヨンの郊外にある私立高校へのホームステイ研修、2週間程度

### 2 受け入れについて

- （1）派遣と同時に「受け入れ」も行っている。（ホームステイ受け入れ、授業体験、文化交流等）
- （2）昨年度はハンガリー、台湾、フランスからの生徒。1学期間～約1年間の交換留学生を受け入れた。
- （3）短期間の受け入れ（平成31年（令和元年）度）
  - ①オーストラリアから2校の生徒が訪問。
  - ②アメリカから2団体の生徒が訪問。
  - ③インドネシアからの高校生が訪問。
- （4）海外で日本語教師として活躍している先生方の団体訪問を受け入れた。

## ■ 本校の進路指導（「和国の進路指導」を参照してください）

### 1 卒業後の進路

- (1) 4年制大学に進学する生徒が大多数。
- (2) 昨年度AO入試、自己推薦（今年度より「総合型選抜」と名称変更）の合格者が、一昨年度の1.9倍→本校での特徴的な学びが生かされている。
- (3) 大学で何を学び、その後の社会貢献をどのようにしていくかの視点を大学は求めている。  
→本校での学びは大きな意味を持つ。

### 2 進路実績

- (1) 国立現役合格率 26%（63名受験）
- (2) 早稲田、慶応、上智、東京理科・・・6名合格
- (3) 学習院、明治、青山学院、立教、中央、法政、関西、関西学院、同志社、立命館・・・145名合格
- (4) 成蹊、成城、明治学院、獨協、国学院、武蔵、日本、東洋、駒澤、専修、大東文化、亜細亜、帝京、国士館・・・315名合格

### 3 3年間の進路計画

- (1) 1年次・・・基礎固め（学びの基礎診断テスト2回、記述模試3回、職業調べ）
- (2) 2年次・・・進路研究（学びの基礎診断テスト2回、オープンキャンパス・模擬授業・入試説明会参加、共通テスト準備（記述模試3回、マーク模試1回、英語外部検定受験））
- (3) 3年次・・・進路決定（模試を受けながら弱点克服（記述模試4回、マーク模試4回）、分野別ガイダンス、勉強合宿、受験対策課外））

### 4 和国ONE DAY CAMPUS（1, 2年生対象）

- (1) 大学の先生による90分間の大学模擬授業を受けて、将来の進路決定の参考にする行事。
- (2) 昨年度は、国際高校らしく、国際関係、外国語系の希望者も多く、また、社会学、法学系の人気も高かった。理工系、看護医療、教育、芸術、家政もあり充実している。
- (3) 毎年12月に実施（今年度は規模を縮小して検討中）

### 5 勉強合宿（3年生対象）

- (1) 夏季休業中に実施（今年度は中止）。例年70名近くの生徒が参加。
- (2) 場所は「フレンドシップハイツよしみ」。1日10時間の自主学習。3泊4日。
- (3) 時間の使い方を仲間と共に試行錯誤し、受験に向けてリズムづくりのきっかけにしている。

### 6 進学補習体制（課外授業）

- (1) 年間を通して（通年）の課外授業は今年度15講座（615名参加）
- (2) 夏季休業中の課外授業
  - ① 1年生・・・6講座（英数国、検定対策・・・基礎基本重視）590名が参加
  - ② 2年生・・・16講座（英数国、検定対策に加え入試対策開始）527名が参加
  - ③ 3年制・・・17講座（英数国理社は受験対策、面接対策もあり）577名が参加→計1694名
- (3) 冬季休業中の課外授業も予定（例年約30講座）